


会派名 報告者氏名	民社友愛 佐藤和典、相澤宗一
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	生成AI（チャットGPT）を活用した議員活動の基礎／議会質問の作り方
日時	令和8年3月26日（木）～27日（金）9:00～11:30
場所	会派室（柏崎市日石町2番1号 市役所 本館2階） ＜映像データによる受講＞ 【生成AI（チャットGPT）を活用した議員活動の基礎】 ○生成AIとは何か ○生成AIでできること ○政策実現のために基本的な使い方 ○ブログ、広報での活用方法 ○生成AI時代の議員がすべき役割りと働き方 
概要	【生成AI（チャットGPT）を活用した議会質問の作り方】 ○AIにおける質問作成フロー ○議会質問／発言とは何か（議会発言の必須の事項と政策実現をさせるためには） ○財政分析での使い方（財政資料をAIで分析） ○事業分析での使い方（事業評価をAIで分析）
所感等	【佐藤和典】 本研修は、生成AIの基本概念や関連用語の理解から、財政分析・事業評価といった実践的な行政課題への応用まで、一貫した流れで習得できる構成であった。 地方議会の議員は、自治体政策に関わる意思決定の場面で、幅広い視点からの調査と根拠ある分析を求められる。しかしながら、そのための情報収集には相当な時間が費やされているのが現状だ。加えて、継続的に政策課題と向き合うためには多角的なデータへのアクセスが欠かせず、限られた活動時間を最大限に生かすうえでAIの導入は今や避けて通れない選択肢となっている。 生成AIは、粘り強く繰り返し問い続けることにも柔軟に対応する。指示が具体的であればあるほど精度の高い回答が得られる一方、曖昧な問いかけでは出力の質も低下する。自分の思考を言語化・整理する訓練としても、まずは実際に使い続ける姿勢が肝要だ。 そして忘れてはならないのは、最終的な判断は常に議員本人に委ねられているという点である。AIをうまく活用することで情報収集や分析の負担を軽減し、本来の熟慮と決断に集中できる時間を生み出すことこそが、今後の議員活動における質の向上につながると実感した。 【相澤宗一】 本研修は、生成AIの種類や用語といった基礎から、問題認識に必要な財政および事業分析などの実務に至るまでを体系的に学べる内容であった。 市議会議員は自治体の運営に関する重要な判断を行うにあたり、多様な調査・分析が求められるが、その資料収集には多くの時間を要している。さらに、扱う課題を継続的に取り組んでいくには多様なデータに触れる必要があり、活動時間の有効活用においてAIの活用は不可欠である。 生成AIは繰り返しの執拗な問いにも応じる特性を持つことから、具体的な指示に対してはより精度が高まる。しかし不十分な指示では成果が限定的となるため、自らの思考を整理するためにも習うより慣れろの積極的活用を心掛けたい。 最終的な意思決定は議員自身の責任であり、その質を高めるためにもAIを適切に活用し、判断に充てる時間を確保することが重要であると感じた。